

非常時に際して。

実績

三四郎はこう動いた！



新型コロナウィルス感染拡大を受け、市の独自施策を提案。



「上下水道料金の基本料金無料化」「子育て世代への支援」「障害者市民への支援」などの施策が実現しました。



災害時にそなえ、公共施設を活用した
福祉避難場所を整備するよう提案しました。



ちびっ子の協力はこころ強い



これぐらいの馬力はまだ…
(西日本豪雨での泥かき)

三四郎はさらに前を！

提案



福祉避難所の拡充

⇒指定避難所にならない
公共施設等を、発災後、
福祉避難所に指定するよう要望



地域防災の強化を要望

⇒日ごろから地域の
「縛(きずな=つながり)」を強める
⇒支援の方々への対応
(妊娠婦、子ども、高齢者、
障がい者市民、外国人市民など)



コロナ禍における
困窮者支援の拡充

⇒電話やSNSによる虐待・
DVも含めた総合相談窓口の設置
⇒福祉事務所、生活困窮者自立
支援事業への加配・
電話回線増等の強化を提案

大阪北部地震での救援物資運搬

社協見守りお弁当の配達

持続化給付金の申請サポート



金ヶ崎にマスク・
生活用品をお届け



1年の346日は休まず働き、残りの19日は身体を休めながらも、アタマはしぶとく地域を考えている。

三四郎は地域ネットワークで情報を拾い上げ、おしあげ相談に走りまわる。地域で助け合えることは地域で、枠を超えた行政への談判。身体のキレはないが、仕掛けは早い。

持ち前の正義感と人権意識。三四郎は「みのお市民人権フォーラム」の事務局で欠くことのできない裏方でした。萱野から始まって箕面へ、箕面から世界へと、野望はでかい。

まちづくりは、まず知恵をしづる。福祉ボランティアの世話役、地域通貨「まーぶ」のシステムづくりでは国(財務局)と掛け合うなどネバリも發揮。三四郎は地域を元気にする達人です。

だから、箕面全体で使い倒してほしい !!

346のプロフィール

1981年8月27日生まれ(38歳)
箕面市立萱野小・箕面市立第二中 卒業
大阪府立渋谷高校・修成建設専門学校 卒業
北芝まちづくり協議会 事務局長
NPO法人理事 等を経て
2008年8月 箕面市議会議員 初当選
2012年8月 箕面市議会議員 2期目当選
2016年8月 箕面市議会議員 3期目当選
箕面市議会 副議長 箕面市監査委員
議会改革検討会議専門部会 座長
広報委員会 副委員長 等を務める

- 趣味 ゴルフ スキー バスケットボール 読書
- 家族 妻と12歳の娘、10歳の息子

ウェブサイト全開中

www.346style.org

ご意見ご要望をお寄せください



なかじま三四郎後援会事務所
〒562-0013
大阪府箕面市坊島1-6-29
電話 / 090-9093-3463
メール / nakayoshi.346@gmail.com

1年で346日つかえるヤツ346さんしろう
**なかじま
三四郎**



自治体のチカラが試されている。
その中心に議会があり、
三四郎は先頭に立つ。

3期12年、皆さまと積み上げてきた箕面の『まちづくり』……これからも。

育つ提案



出産費用や子育てにかかる
医療費の減免を要望

障がいのある児童・生徒が、
健常の子どもたちと学習や
生活の時間を共にするため、
学級定員の見直しと
「みんなの先生」
のような加配教員を配置

これまでの実績

- 子どもの医療費助成を、所得にかかわらず18歳まで延長することができました。
- 待機児童の解消を図り、保育士の確保、子どもの定員を増やすなど、保育の充実を実現させました。
- 不登校の子どもたちの学習支援を拡充し、対象の年代を高校生までに広げました。
- 市内の小学校すべての学年に「みんなの先生」(加配教員)を配置するよう提案しました。

「子ども食堂」の
立ち上げ支援のため
助成制度を整備

選べる未来が必要
笑顔で過ごせる居場所、

暮らす提案

空き家や
独居高齢者宅を
活用し、
認知症カフェや子ども食堂など
あらゆる世代が集まる
拠点を整備



見えにくい“ひきこもり”や
若者世代に対して、
SNSによる
相談窓口を設置

オンライン装置を活用した
高齢者の
新しい見守り・つながりづくりを



これまでの実績

- 制度にあてはまらず、狭間《ハザマ》で困っている人たちが相談できる窓口「生活困窮者自立支援」事業を、スタート段階から実践してきました。
- 障がいのある子どもたちが安心してすごせる居場所「放課後等デイサービス」の充実を進めました。
- 介護予防・総合事業の拡充に一環して努めています。

働きへの提案

人生の再チャレンジができる社会に



市民サービスに従事する
非常勤職員の
待遇改善を提案

コロナ禍によって
減収した方々の、
行政による雇用
を提案

まだまだ現役！という
元気高齢者の
生きがい就労の場を増やす

これまでの実績

- パーソナルサポートサービスを導入し、生活相談を入り口とした就労支援を進め、部署を越えた支援体制をつくりました。
- 生きづらさを抱えた若者たちが安心してすごせる社会的居場所を開設、若者たちが地域活動に参加し、自分らしく生きていくためのサポートを進めました。
- 若者たちの就労・社会参加を支援する相談窓口の設置について提案しました。